

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1174200509
法人名	社会福祉法人 豊井会
事業所名	グループホーム賀美邑
所在地	〒369-0311 埼玉県児玉郡上里町勅使河原1584 (電話) 0495-35-0333

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(平成20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,185 円	その他の経費(月額)	1,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 実費				

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	昴星クリニック、くぼた医院、上里歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、室内が広くとられており明るい雰囲気である。鍵をかけないケアを行っている、玄関以外でも各部屋からは建物の周りのウッドデッキに気軽に出入できるようになっている。1ユニットで設立して7年が経過したが、これまでに職員の異動は殆んどなく、利用者と職員の関係も密接な関係を築いている。また、その経過の中で利用者の介護度も徐々に高くなってきているが、ホームの協力医療機関が24時間の対応をとるなど在宅支援にも非常に協力的で、職員も研修等を重ねながら車椅子を利用する方や経管栄養の方への対応等のサービスを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の研修の年間研修計画の作成や介護計画作成のアセスメントについて、職員会議等で対応策などを話し合っている。ホーム内の研修などを取り入れた全職員対象の研修計画までには至っていない。また、アセスメント票も現状では複数有り、同じ内容の記録が複数見られ、現在更に検討が進められている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価についてはホームの理事長、管理者が検討し、職員会議等で課題を検討している。職員会議で話し合いの上、課題解決に向けた対応策を実施している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回、運営推進会議が開催されている。会議のメンバーは、民生委員、地区公民館長、利用者、家族、理事長、ホーム長で、4名~6名の出席者で行われている。会議では、利用者の過ごし方、地域の行事への参加、ホームの緊急時・災害時の避難地区等について話し合わせ、会議で検討されたホームの行事を地域に回覧するようになった。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や電話で健康状態や暮らしぶりを伝えている。また、希望する家族にはメールで写真を添付して報告している。定期的に暮らしぶりを伝える便りなどは作成されていない。苦情などは「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」として苦情対応窓口、担当者、処理体制・手順等がマニュアルとして作成され、対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くの小学校や中学校などから授業の一環としての訪問があるほか、地域の方による音楽会などのホーム行事への参加もある。また、一方で利用者も地域の運動会や公民館の行事などに参加している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームはのどかな雰囲気のある地域にあり、地域の高齢者を元気にしようとの思いで設立された。7年が過ぎたが、開設以来掲げている理念「生活する主体が入居者で、スタッフはパートナー」は地域のなかでの生活を表現したものであり、現在も大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関先にも掲示され、毎月行っている職員会議でも議題としてとりあげている。また、利用者とのかわりの中にも機会あるごとに理事長等からも職員に伝えており、職員に理念の意識付けがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの小学校や中学校などから授業の一環としての訪問や、ホームで行う音楽会などの行事に地域の方の参加もある。また、利用者の地域の運動会や公民館の行事などに参加して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ホームの理事長、管理者が検討し課題として職員会議等で検討している。また、前回の外部評価の課題についても職員会議で話し合い、解決に向けての対応を実施している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催されている。メンバーは民生委員、地区公民館長、利用者、家族、理事長、ホーム長で構成され、4名～6名の出席者で行われている。会議では、利用者の過ごし方、地域の行事への参加、ホームの緊急時・災害時の避難地区についてなどが話し合われ、ホームの行事が地域に回覧するようにもなった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、町へホームの空き状況や町内の利用者の待ちの状況などを報告したり、連絡をとりあっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時または電話で健康状態や暮らしぶりを伝えているほか、希望する家族にはメールで写真を添付して報告している。預かり金については毎月1回明細書を送付している。定期的に暮らしぶりを伝える便りなどは作成されていない。		面会に来られない家族とも利用者の状況等を共有するように、個々の状況に合わせた定期的な報告が期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」として苦情対応窓口、担当者、処理体制・手順等がマニュアルとして作成されている。家族からの意見等に対しては職員会議で検討のうえ対応している。家族への報告とその後の確認まで約2か月かけて対応した事例もある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットで職員数も少ないが、開設以来職員の退職は少なく、職員の退職等で利用者のダメージ等につながった状況は特に見られていない。また、併設する施設もあるが職員が異動することはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの年間研修計画を作成し、その計画に基づき職員が研修に参加している。研修後は研修内容等を報告し、職員に資料を回覧するとともに、月に1回行っている職員会議で報告している。法人内またはホーム内研修などを取り入れた全職員対象の研修計画までには至っていない。		ホームの求める知識や技術等を得るための研修と職員個々の力量を上げる研修を、外部研修だけでなく、法人やホーム内の研修の充実と研修報告の機会を活用することで、さらにサービスの質の向上につながるものと期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、地域の勉強会や会議に参加している。また、ケアマネジャーの連絡会にも加わり研修等に出席している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に見学してもらい、本人の印象を大切にしながら入居につなげている。職員が利用者の自宅等へ訪問して顔馴染みになってから入居に至ることもある。また、入居後は利用者が慣れるまでのしばらくの間、顔馴染みの職員が担当している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>1ユニットのグループホームであり、利用者と職員の関係が近い。お焼きなどのおやつ作りや配膳を共同で行う、昔の歌を一緒に歌ったり散歩に行く、昔の話をしてもらうなど、一緒に支える行動や活動が多くみられる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族にも面会時などに希望や意向を伺うほか、日常生活でも「入居者とのふれあい記録」にその日の出来事や希望を記録し職員全員がその情報を共有するようにしている。また計画作成担当者とホーム長でアセスメント用紙に記録している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族との面談後、介護計画について職員会議やケアカンファレンスで検討し、計画作成担当者が計画を作成している。作成した計画については家族にも面会時等に説明している。現在はアセスメントの方法について検討が行われている。</p>		<p>アセスメントについて今後も継続した検討が望まれる。現在複数みられるアセスメント票の様式を統一し、具体的にわかりやすく記載することで、よりよい介護計画の作成に活かしていくことが期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1回の定期的な見直しをするほか、介護度の更新時や変更時、また本人の状況に応じて職員会議で話し合い、介護計画の変更を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回の定期的な通院には職員が同行している。また、併設するケアハウスの音楽会やカラオケ教室に参加したり、外出等の行事にも一緒に出かけている。夜間等に利用者の状況に変化があった際は、ケアハウスの職員と協力して対応にあたることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度は協力病院へ職員が付き添って受診しているが、本人や家族の希望に応じて別の医療機関を受診することも可能である。なお、協力病院は24時間対応を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設から7年の経過と共に利用者の介護度も高くなり、車いすや経管栄養を利用する方も生活している。協力病院も在宅での看取りに対して非常に協力的で、経管栄養の利用についての指導や協力を行っている。ホームも「看取りに関する指針」を作成し、家族や利用者の意向を聞きながら対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は事務所の鍵のかかる書庫で管理され、日常生活の中でプライバシーに関わることなどについては職員会議で取り上げて話し合っている。また、職員が入職したときには個人情報の保護などについて説明している。居室の戸は曇りガラスを利用して室内の状況が容易に分かり、職員の居室への出入りも比較的自由となっている。		ホームとしての個人情報の取り扱い方やプライバシーへの対応方法等について、研修等を通して具体的に、職員全体で共通認識のもと取り組まれることが期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事にゆったりと時間をかけたり、日中の生活でも本人のペースを尊重した対応をしている。また、就寝時間を特に決めることもなく、自由に休んでもらうようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設する施設の栄養士が献立を作成している。ホームで盛り付け準備や配膳を職員と利用者が一緒に行うほか、お焼きなどのお菓子も一緒に作っている。経管栄養の方や食事介助を必要とする方もいるが、昼食は職員一人と一緒に食べるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回の入浴日を設定している。入浴を拒否する方には薬草のお風呂などを取り入れたり声かけをするなど、少なくとも週2回以上は入浴するように工夫している。車いすの利用者には職員2人で対応し、入浴出来ないときには清拭を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活に張り合いが出るよう、生活歴を活かした役割や趣味、楽しみごとの支援をしている。現在の利用者は全員が女性で、縫い物や洗濯物たたみ、食事の配膳や片付けなどをほぼ毎日行ったり、その日の様子に応じて書道やカラオケ等も取り入れている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は併設する施設の周りを散歩したり、月1回の定期受診の時には買い物などにも立ち寄っている。ホームの周りはウッドデッキとなっていて、日常生活の中でも日光浴や運動に利用している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。また、居室には鍵の設置もない。居室からは外のウッドデッキにいつでも出られる。以前に一度徘徊があり、職員等で玄関への鍵の設置を検討しているが、現在は玄関の戸を開けると鈴が鳴る仕組みになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立会いで夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議では地域の方にも協力を呼びかけ、区長の参加もみられた。なお、併設する施設と分担して備蓄品も揃えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する施設の栄養士が献立を作成している。利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量などを常に把握し記録しており、食事の摂れない方へは好みの物なども取り入れながら提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓がありホームの中央にある食堂も明るく、南側の日当たりの良いところにはソファーが置かれ一休みできる場所にもなっている。全体的には落ち着いた雰囲気的空間であるが、天井には中学生の訪問で作成された飾りつけなどもなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には木製のベットが備え付けてある。個々の利用者に応じてダンスや鏡台、趣味等で使っていた三味線も置かれており、その人らしい居室作りとなっている。		